

架設誤差としては、上記③、④を考え、鉛直および水平の格点位置誤差による張力として与えた。これらの設計時に見込んだ製作・架設誤差によるハンガーロープの張力を管理値と考え、以下に測定結果の誤差量と比較する。

(2) ハンガーロープ張力測定結果

開通直前に実施した完成時のハンガーロープ張力の測定結果は、図-2に示す通りである。図中の縦軸の張力は、ハンガーロープ1本当たりの張力（鞍掛け左右の合計張力）測定値から計算張力を引いた誤差張力である。この図からわかるように、多少誤差が存在するものの、港内、港外側ともに設計時に見込んだ製作・架設誤差（管理値）以内であった。

4. あとがき

過去にこのようなハンガーロープ張力を全数測定した報告は見られないが、今回測定値が得られたのでここに報告する。今後の設計資料の一助になれば幸いである。

〔参考文献〕 1) 新家、広中、頭井、西村：振動法によるケーブル張力の実用算定式について、土木学会論文報告集、第294号、1980.2、 2) 並川、川田、大垣、吉村、浅井：レインボーブリッジのハンガーロープ張力測定、土木学会第48回年次学術講演会、I-479、1993.10、 3) 川田、荻原、松田、大垣：レインボーブリッジのハンガーロープ引込み管理、土木学会第48回年次学術講演会、VI-150、1993.10

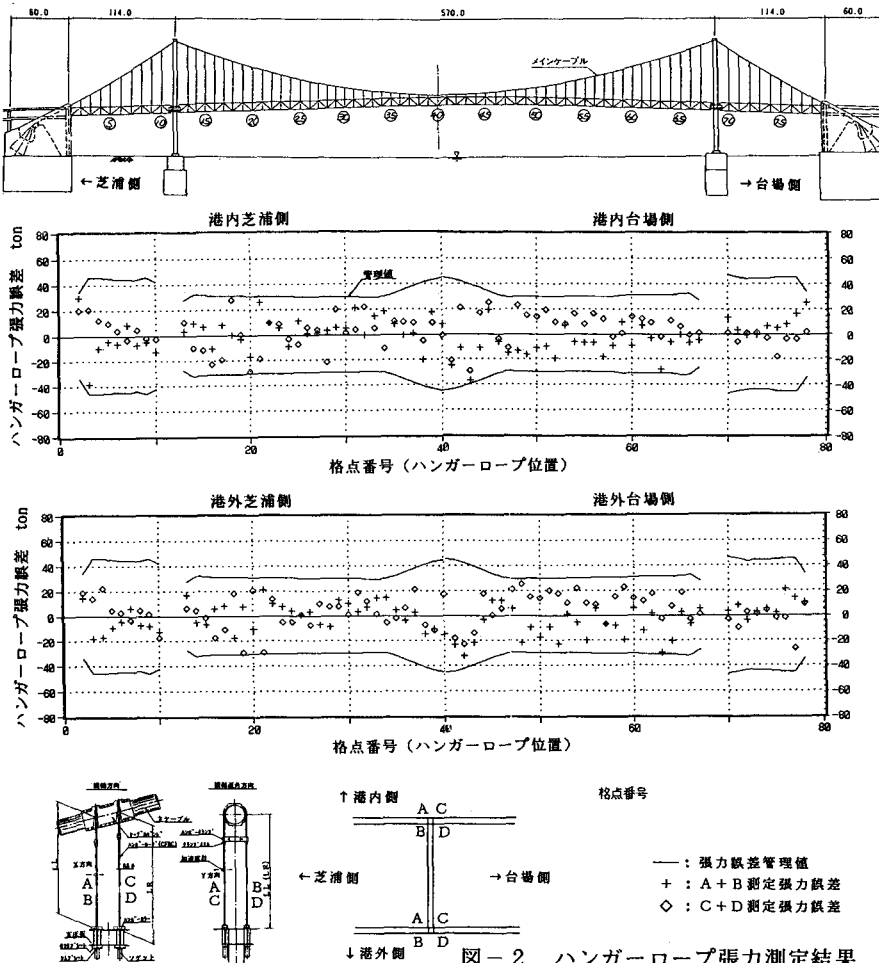


図-2 ハンガーロープ張力測定結果